

▲錦鯉の卵



朝もやの中

錦鯉産卵

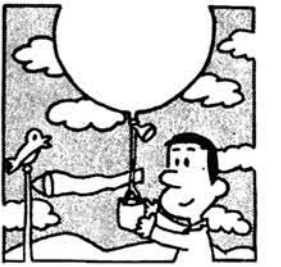
錦鯉発祥の地、山古志村。竹沢小学校校門脇に「錦鯉発祥の地」と刻まれた記念碑があります。米、牛とともに村の主要産業である錦鯉。「泳ぐ宝石、山古志特産錦鯉」は、全国的に有名です。

今年が雪が早く消えたため、四月末から五月初めにかけて、越冬施設やイキスで越冬されていた錦鯉が、飼育用の大きな池に放されました。狭い所から広い池に放された錦鯉たちの泳ぐ姿は、見るだけで気分爽快です。

五月の二十日ころから産卵も始まりました。別々の池に放されていた雄と雌の錦鯉を、産卵池やビニールの水槽にいっしょに入れます。そうすると普通は、翌朝明かると同時に、産卵を始めます。雄と雌がいっしょに水しぶきをあげながら、産卵用に入れた杉の葉やビニールの糸の束に、卵を産みつけます。卵の大きさは直径一〜二ミリの程度。透きとおっています。産卵数は、十方粒以上。大きな雌は三十万から五十万粒もの卵を産むといわれています。

そして五日から一週間後には、稚魚が孵化します。この稚魚を、夏の間に何回も選別をくり返し、秋までに十五センチほどの大きさの当才鯉に育て上げます。

人口の動き (62.4.30現在) ■人口 3,235人(0) 男 1,627・女 1,608 ■世帯数 848(0) ■4月中のうごき □出生 2 □死亡 5 □転入 19 □転出 16



気象記念日6月1日

お知らせ

防ごう 土砂災害 6月は 土砂災害 防止月間

土砂災害(土石流・地すべり・がけ崩れ)は、一瞬のうちに尊い命や貴重な財産を奪ってしまいます。次のような兆候が現れると非常に危険です。「危ないな」と思ったら、まず避難しましょう。

★避難は早めに、土砂の流れに対して直角の方向へ!

●雨が長く降り続くときや、大雨のとき。

簡単に安上がりの ハエ駆除装置

家庭や牛舎でハエの発生する季節となりまして、ここに紹介するハエの駆除装置は、長野県で肉用牛を飼っている百瀬さんという人が考案されたものです。百瀬さんはこの装置で、農場からほとんどハエをなくし、住宅地の中でゆうゆうと牛を飼っているそうです。

▼家バエ対策 家バエは薄青色を好んで集まるから、薄青色のコンテナの縁に「ボルボ50」と砂糖を混ぜたものを振りかけ、ハエの集まりそうなところにおく。集まったハエは「ボルボ50」に触れて、コンテナの中で死ぬ。

▼銀バエ対策 臭いの強い出荷近い牛のフンに発酵する程度に水を加えたものを、ポリ容器などに

6月の

納税・保険料

- ★国民健康保険料
- ★国民年金保険料
- ★村・県民税
- ★保育料(6月分)

入れ、その表面に「ボルボ50」と砂糖を混ぜたものを振りかけておくと、家バエと同様に死ぬ。(これは五月二十二日の全国農業新聞に掲載されていた記事です。ボルボ50とは動物薬品店で殺虫剤として市販されています。)

6月中は河川・海岸愛護月間です

献血にご協力 ありがとうございます ございました



4月27日の献血で、次の109人からご協力いただきました。(敬称略)

○印は400cc採血者

虫 亀

斉藤ハル	酒井省吾	五十嵐ミヨ
佐藤丈平	長島世津子	五十嵐キヨ
峰村 功	若槻 敬	五十嵐洋子
五十嵐なつ子	石原里志	長島広吉

竹 沢

星野重行	星野信一	川上春雄
高野キユ	高橋武俊	川上敏郎
関 稔	星野清剛	小川恒夫
星野芳英	青木まり子	星野信子
星野加代子	○小池正夫	星野信子
小池順子	星野武正	星野サツ
○関 幸雄	佐藤誠一	佐藤テエ子
高野秀明	星野真佐子	星野一三
星野京子		

東竹沢

関 金作	小川清一	上田清作
松井治二	高野 進	○五十嵐与吉

種苧原

米岡祐三	坂牧広志	坂牧吉太郎
金内美佐子	草間頼雄	○小川六一
小川英夫	小幡正夫	中島文男
小川亨介	樺沢政子	佐藤由香子
金内靖子	山口 博	樺沢美由紀
小幡清美	樺沢吉章	坂牧滝衛
稲田清二	小川善幸	坂牧春幸
小沢和之	草間幸喜	樺沢和子
小川江里子	草間幸満	樺沢かずみ
川上佐織里	風間真由美	小川和子
坂牧直代	○樺沢恵子	坂牧あき子
坂牧二三子	坂牧和栄	樺沢和利
加藤秀晴	坂牧兼松	坂牧忠雄
小川藤雄		

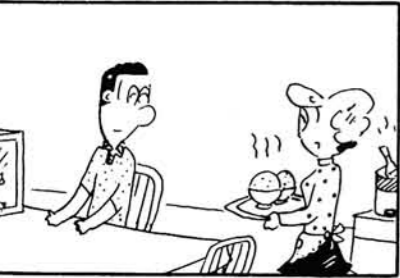
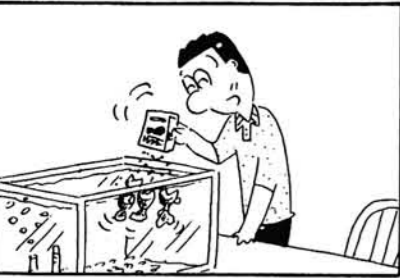
南 平

青木尊男	青木ハル	青木裕子
○畔上 勝	畔上多作	斉藤かおる
畔上 暁		

村 外

影山勝広	小川美佐子	森山さとみ
佐藤 敦	坂牧良一	菊入 淳
小船井浩	○星野武男	関 耕司
小林久雄	山内義雄	

さわやか 君



▼テーマ
簡保・年金資金でつくられた施設

ご応募ください

郵政省の写真と作文コンクール

郵政省では郵便事業のほかに、「簡易保険・郵便年金事業」も行っていきます。そしてこの「簡保・年金資金」は、県や市町村を通じ、学校・住宅・道路・公園などの建設に役立っていて、私達住民の福祉の増進に寄与しています。

郵政省ではこの「簡保・年金資金」の役割について広く理解を得るために、次の二つのコンクールを行います。多数ご応募ください。

第19回簡易保険・郵便年金資金 写真コンクール

▼小学校五・六年生および中学生が対象です。

第26回簡易保険・郵便年金資金 作文コンクール

▼募集期間
七月三十一日まで

▼作品の受付
竹沢郵便局

▼応募規定

- ・作品の大きさ
- 一般の部……四ツ切(カラー・白黒) またはカラーサイズ(35幅以上)
- 小・中学生の部……キャビネ(カラー・白黒)

・応募細則

単写真または組写真(3枚以内)で未発表のもの。

みなさんも、山古志村らしい特徴ある「健康づくり我が家の献立」を実行しておられましたら、また新しく考えられましたら、ぜひ

「健康づくり我が家の食卓」コンクール

県では、「健康にいがたクロール運動」の一環として、広く県民の参加を得て、「健康づくり我が家の献立」を募集しています。この中から優秀事例を選び、これを普及し、県民の健康づくり運動の輪を広げようという趣旨で行われるものです。

民俗芸能発表会

・期日—6月28日(日)午後1時から
・場所—村民会館
多数、参加観覧ください。

闘牛大鼓「鼓竜会」会員募集

闘牛大鼓でおなじみの鼓竜会が会員を募集しています。小学生から一般の人までどなたでも構いません。小学生から一般の人までどなたでも構いません。小学生から一般の人までどなたでも構いません。小学生から一般の人までどなたでも構いません。



ンクールに応募してください。詳しくは、住民課へお問い合わせください。(電話 59-2330)

山古志村 春の風物詩

雪消えの早かった今春。豪雪の昨年比べ、農作業は順調に進んでいるようです。四月中旬からの苗代作りに始まり、四月末には越冬されていた錦鯉も狭いイケスから広い池に放されました。

五月の連休から耕耘・代かきが始まり、早い人は五月の十日ころ田植開始。田植への最盛期は五月十五日ころと、昨年より十日以上早かったようです。五月下旬には、田植もすっかり終わりました。錦鯉の産卵も五月二十日ころから



▲耕耘、代かき



▲田植え



▲苗とり、田植え ▼錦鯉の産卵池



ら始まりました。

●降水確立予報●

上手な利用で 価値ある“情報”に

「明日午前9時から午後9時までに、1ミリ以上の雨が降る確率は〇〇%でしょう」といえば、皆さんもご存知の「降水確率予報」です。

これは、一定の地域内・時間内に、1ミリ以上の雨または雪の降る確率を予報するもので、発表される確率は、0%から100%までの10%きざみで表されます。

数字の出し方は、予想される大気の状態と過去の統計をもとに、コンピューターによって計算し、さらに予報官が経験と最新の情報を加味して補正します。

■あなたは誤解していませんか？
降水確率予報がスタートしたのは昭和55年6月。すでにおなじみになったとはいえ、なかにはいまだに誤った解釈をしている人もいます。

〔誤解その①〕
「〇〇地方に雨が降る確立は30%」というのは、〇〇地方の30%の地域だけに雨が降る可能性があることだ。

降水確率予報は、対象となる地域内のすべての場所について、等しい確率で雨か雪の降る可能性を予報したものです。別の言い方をすれば、30%の予報の場合は、雨の降る可能性が3割あるということです。

〔誤解その②〕
降水確率70%の日は、降水確立60%の日よりも強い雨が降る。また、雨量も多い。

数字の大小は、雨の強さや雨量を予報するものではありません。降水確率予報は、あくまでも雨、または雪の降る可能性が高いか低いかを表すものだからです。



ですから、20%と予報された日にどしゃぶりの雨が降り、80%の日にパラパラ降ってすぐに止んでしまうこともあり得るわけです。

降水確率予報は、一般の天気予報と組み合わせると、よりキメの細かい情報が得られます。

「降水確率は40%だが、“のち晴れ”の予報だから雨具はいらない」といった具合に、それぞれの状況に応じて判断してください。

真鯉の缶詰 「恋深」

好評・販売開始

今春設立された「株式会社・ゆきぐに企画」が開発した真鯉の缶詰が、あちこちで大きな反響を呼んでいます。

これは、昨年から試作を進めていたもので、今春の会社設立を契機に、広く一般に販売を開始したものです。

山古志村は、錦鯉の産地として全国的に有名で、発祥の地ともいわれ、村人は古来から錦鯉の飼育を続けてきました。しかし、それ



と同時に自家用の食用鯉として、真鯉も少しづつ飼われていました。そして、錦鯉飼育者にとつてのハイト「池揚げ」の夜は、どこの家でもこの真鯉で作った「鯉こく」や「洗い」で池揚げを祝ったり、手伝いの人たちの労をねぎらっていたものです。

「鯉こく」とは本来、鯉一本をそのまま輪切りにしたものか、「洗い」をとったあとの残りの身を、みそ味でじっくり煮こんだものです。「洗い」とは、大きめの鯉を三枚にし刺身を作り、これを水にたたかせるか、軽く湯に通したものをいいます。

この「鯉こく」を缶詰にし、誰でも手軽に食べられるようにできないものか、という話から始まりました。味は少し薄くする等、現代風・都会風にアレンジし試作した結果、誰が食べても味は好評。商品名は、「鯉こく」の語路をそのまま利用し「恋深」と命名。生産が始まりました。

五月中旬、「恋深」についてテレビ局と新聞社三社の共同取材があり、これが報道されたために、

電話や手紙で問い合わせが殺到。「観光みやげ品として売りたい」とか「ぜひ賞味してみたい」という内容のようです。(株)ゆきぐに企画ではこの対応に大わらわ、嬉しい悲鳴をあげています。

価格は、三個箱入りと六個箱入りがあり、それぞれ千五百円と三千円です。一個で茶碗一〜二杯分。お問い合わせは、(株)ゆきぐに企画へどうぞ。

(電話 59-2151)

稲・田植後の初期管理

稲 (よいいね) 活善 (よいうし) 生改 (よいせいかつ)

- ▲水管理
 - ①田植後、苗が活着するまで一週間は、5cm程度の深水にし保温に努め、活着を早める。
 - ②活着後は、二〜三cmの浅水にし、太陽の光を株元に充分あて地温を上げ、分けつの発生を促す。
 - ③除草剤散布後の四〜五日間は、水深四〜五cmを保つ。
- ▲中耕
- ▲除草機をこがすと、有毒ガスを追い出し根張りがよくなり、分けつの発生が促される。



▲除草剤散布

①散布ムラや重ねまきのないよう平均に散布する。また、散布後は田面の土が出ないよう、水管理に注意する。

②日中、気温が二十八度以上の高温時に散布すると「薬害」発生の恐れがあるので、そういう日は夕方になってから散布する。

▲補植苗の除去

いつまでも水田内に補植苗を放置しておく、いもち病の発生源になります。早めに補植をすませ六月十日ころまでに処分してください。

▲畑・果菜類の管理

梅雨に入り降雨量が多くなると、湿害が発生しやすくなります。排水路の整備を早めに行っておきましょう。

乾燥時の灌水は、野菜作りの大

切な作業です。トマトは、着果するころや果実の肥大期の灌水が有効です。

キュウリは、株元の老化葉を取り除きましょう。通風がよくなり病気の発生を抑えるとともに、側葉の新葉発生を促します。

トマト、キュウリなどは、支柱に結びつけ、早めに誘引しましょう。トマトのわき芽は、すべて小さいうちに取り除きます。キュウリは、親づるの五節以下の側枝は早めにかき取り、六節以上の側枝は二葉残して摘芯します。ナスは、一番花が咲いた枝とその下から発生する側枝二本を残し、それ以下の側枝は早めにかき取りましょう。

スイカは、本葉四〜五枚で摘芯し、三〜四本の子づるを残します。プリンスメロンは、本葉四〜五枚で摘芯し、子づるを二本残します。子づるから出る孫づるは、三節目以下のものを早めに除き、四節目から着果させ、着果枝は二葉残して摘芯します。

薄く敷ワラをしておきましょう。降雨による土のはね上り防止や、除草効果・乾燥防止になります。(三古農業改良普及所長岡田)



昭和62年度 自衛官等採用試験案内

昭和六十二年度の自衛官等の採用試験が行われます。希望者は、受験をお申し込みください。

◎二等陸・海・空士

●資格——十八歳以上二十五歳未満の者

●受付期間・試験期日——受付は年間を通じて行われております。試験期日は、受付時に指定します。(ただし、昭和六十三年三月高卒予定者は、十月一日以降)

●合格発表・入隊——試験後、

合格者にはおおむね一カ月後に採用予定通知書で通知し、入隊案内が送られます。入隊方法等は、この案内書に説明してあります。

●待遇・その他——初任給十一万二百円。期末・勤勉手当年三回、合計四・九カ月分。衣食住は、無料支給または貸与。

●技術教育——自衛隊は技術教育に力を入れていきます。職種により次の国家免許を取得する機会があります。

- 普通・大型自動車運転免許
- 大型特殊自動車運転免許
- けん引免許
- 自動車整備士
- 特殊無線技士
- 工事担任者(電話設置)
- 電話交換取扱者
- ガス溶接技能者
- 危険物取扱者
- ボイラー技士
- 調理師
- 准看護士



◎一般曹候補学生・航空学生・防衛大学校学生等や女子の採用試験もあります。詳しくは、〒940 長岡市千歳一丁目3-27 自衛隊新潟地方連絡部、長岡出張所(電話 33-0256)へお問い合わせください。

日々雑感

村長酒井省吾

▲闘牛合音

もえる新緑、タニウツギの花ばな、植え終えたばかりの田の面などを撫でた微風がさわやかに頬をくすぐる。「風薫る季節」……何と良く言い得ていることか。

いつもの年より少しおくれで今年第一回目の牛の角突きが先月十七日虫亀会場で開幕された。新幹線や高速道路が整備されて県外からの観客が年々増えつつあることはよろこばしいことである。牛たちは冬の間の牛舎ぐらしから解放されたよろこびをぶつけ合って熱戦また熱戦。勢子は雨を忘れ、観客は湧いた。

一般の人はあまり足を踏み入れないが牛繋留場は見ものである。出番を待つ牛、闘い終えた牛、前掻きし胸声を響かせにらみ合い、六十頭余の牛が木立の中につながらるさまはまことに壮観であり、圧倒される思いである。

良寛さまに強くひかれていた長兄の蔵していたものに、角突きを見て賦されたと言ふ一詩がある。

虫の闘見午闘

群牛早晚道桃林草色青傍頭句深
盤髪勇踏羅旗若花顔女立拵技陰
鼻繩放去牧童手身腹披未遊子禮
吾復沙場知苦相看轉夕戰争心

草むらや木の茂みにかくれてたくさん牛がながれている。まだ角突きが始まらないうちにつなを切つてむらのほうに逃げ帰る牛もいる。早く来て良い場所に陣取る男たち、紅をつけ着飾った娘たちは危険でないところから見ている。牛飼いの若衆が放り上げた鼻繩が中天に舞い、ベテラン勢子の肩に落ちて懸る。牛と勢子と一つの塊りとなつて押し返され、観衆からも声援がとぶ。分け際のいざこざで人間同志の喧嘩が始まる。「吾復沙場ノ知苦相看テ轉夕戰争ノ心ヲ起ス」みんな熱中して争っているように見えても牛にとつては大事な運動であり、土地の人たちは牛が好きですきで可愛いことたまらない。そんなところをよくみておいでのように思う。

いま良寛さまが静かなブームを呼んでいる。

山古志の角突きも人を引きつける素地と歴史をもっている。これに磨きをかけて地域の活性化につなげる努力をしてゆきたいと思っている。